

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成19年 9月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0770302321		
法人名	有限会社 花束		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	〒963-0107 福島県郡山市安積四丁目334番地の1 (電話) 024-937-2425		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成19年9月6日	評価確定日	平成19年10月18日

【情報提供票より】 (19年8月2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 11人, 非常勤 4人, 常勤換算 13.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	21,000円(4~6,9~10月) 24,000円(7~8,11~3月)	
敷金	有(円)	無(退去時クリーニング代20,000円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.6 歳	最低	47 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡沼内科往診クリニック、まつかわ歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平屋建て2ユニットのこのホームは、ユニットごとに別棟で建てられている。それぞれの共用空間が中庭のウッドデッキで繋がっており、利用者が天気の良い日に10時のお茶や昼食をそこで食べることを楽しみにしている。ウッドデッキの先には青々とした芝生と利用者が一生懸命育てている野菜畑が続いている。オープンから2年が経過し、利用者本位に職員全員で支援しており、家族や運営推進会議の委員の積極的な協力もあり、工夫されたホーム行事が展開されている。毎日の食事は、利用者の食べたいものを主菜とし、全員の食べたいものが順番に出てくるようになっており、食事が利用者の一歩の楽しみの時間となっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善点を職員会議で話し合い、家族へ向けた会報誌の発行を始めたり、毎月の利用者の様子を手紙で伝えたり、地域との連携のための夏祭りを開始したりしている。職員全員で検討しながら、できることから改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者や管理者が評価の意義や目的を職員に伝え、全職員で取り組むよう努力している。今回の自己評価は職員間で検討しながら実施した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議の委員を地区町内会の役員や民生委員、地域包括支援センターの職員、家族の代表、さらに医療連携体制で契約している看護師等に依頼し、2ヶ月に1回開催している。会議の中で夏祭りの計画について相談したところ、和太鼓を演奏してくれるボランティア団体を紹介してもらい、今年の夏祭りでは地域の人や家族も招待しホーム全体で楽しい時間となった。委員からは、地域の行事案内があったり、近くのフラダンスクラブやギターやバイオリン等の演奏家を教えてもらったりし、ホーム行事の際にお願いできるような体制になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月、家族宛てに利用者ごとの生活の様子や金銭管理状況を報告している。遠方に住んでいる家族も毎月1回は訪問があり、家族の意見や要望を確認している。出された家族の意見等は申し送り等で情報を共有し、運営へ反映させている。今後は、聞き取った意見等を連絡ノート等を活用して、必ず記録に残してほしい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会へ入会し地域の清掃等に利用者と一緒に参加している。また、地域の演奏家宅に招待され、ギター、バイオリン、ハーモニカ、オカリナ等の演奏を聴かせてもらった。さらに、運営推進会議で委員等から協力的な意見が出され、夏祭りに和太鼓の演奏を依頼することができた。地域の人や家族も招待して、利用者にとってとても楽しい時間となった。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設時に作り上げた、日々の取り組みを具体化した内容の理念はあるが、見直しは行われていない。地域密着型サービスとしての役割を反映した理念とする必要があると思われる。	○	地域密着型のホームとして、具体的な理念の構築を全職員で話し合い、家族や利用者にも分かりやすい自分たちの言葉で表現することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はスタッフ会議等で理念の共有化を図り、日々の実践に向け取り組んでいる。今後は新任職員にも徹底されることが望ましい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の清掃活動等には利用者(参加可能な方)も一緒に参加している。ホームで夏祭りを企画し、地域住民にも呼びかけ参加してもらい、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果で要改善となった点について、職員間で検討し、改善している。今年の自己評価は全職員で意見を出し合い、サービスの向上に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者の家族、地域包括支援センター、地域住民の代表、民生委員等で組織され、2ヶ月に1回開催されている。回を重ねるごとにホームへの理解が深まり、具体的な質問や意見などが出され、サービス向上に活かしている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用料等の請求書を送付する際に金銭出納報告とともに、利用者の近況を担当者が手紙や写真で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へは入居時に苦情等の受付窓口等について説明しており、いつでも気軽に話せる雰囲気づくりをしている。家族からの意見については申し送り等ですぐに情報を共有し、運営へ反映させている。今後は、聞き取った意見等を必ず記録に残してほしい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設後1年くらいは職員の異動等があったが、現在は職員が定着し、ほとんどの職員は利用者にとって顔馴染みとなってきており、利用者も安心し落ち着いている。職員の異動の際には、利用者への支援体制を工夫し対応するようにしている。		


外部 評価 値	自己 評価 値	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には職員のレベルによって参加させている。また、職員から研修会に参加の希望があった場合にも受講の支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しているので、交代で研修会を受講でき、その機会に情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ミニ菜園では野菜の種の蒔く時期や育て方等利用者から教えてもらっている。また、利用者の中にピアノが上手な方や元和菓子職人もおり、利用者それぞれの得意なことを教えてもらっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向については、毎日声をかけをし、「行きたい、食べたい、したい」等について把握し、できるだけ希望に添えるよう支援している。希望が多いときは順番に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いが反映した介護計画を作成し、計画に基づいた支援内容を実践的な言葉で職員に伝えているため、適切な支援が行われているが、職員は介護計画を見たことがない。今後は、作成した計画を職員に伝え、日々のケアをする際に確認しながら取り組めるよう工夫してほしい。	○	毎日の支援の土台になる介護計画はとても大切なものであるため、その内容を職員全員で共有してほしい。職員が定着しつつあるため、利用者に対する具体的なケアの内容が頭の中にあるが、新しい職員が入っても同じように支援できるよう、毎日、介護計画を見える所に置き、支援してほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。また、利用者の思い等に変化が生じた場合は、利用者の現状に合わせて、利用者それぞれの介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある利用者は引き続き適切な医療を受けられるよう支援している。また、家族の要望により、通院介助も対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に「看取りに関する考え方」は作成し説明しているが、利用者及び家族に対しての重度化に伴う意思確認書の作成には至っていない。	○	医療連携体制の整備がなされていることから、利用者又は家族等へ「看取りに関する考え方」を説明し、重度化に伴う意思確認書等により、意向を確認しながら、職員間で対応方針の共有をすることが大切である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報利用同意書を個々に取り交わしており、適切な取り扱いがなされている。また、写真撮影の同意書も取り交わしている。職員は利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や入床時間は本人のペースで行われており、また、利用者の思いを大切に食事、外出、入浴等利用者の希望を取り入れながら支援している。職員は、いつもその人らしさを発揮できるよう常に場面づくりを心がけている。		

外部 評価 価	自己 評価 価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者から毎日何が食べたいかを聞き、希望が多いときは順番制にしている。買い物や食事作りの中で、利用者の力を活かしながら支援しており、利用者は食事を楽しみにしている。職員も見守りながら一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも入浴できる体制となっており、利用者の希望に応じて支援している。しょうぶ湯やゆず湯、入浴剤を使用して工夫している。また、入浴拒否者があり、みんなで温泉に行ったり、職員と一緒に入浴したり、工夫して対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	編み物や刺繍の得意な方には引き続き趣味の支援をしている。ホーム内には、その作品を飾っている。また、読書の好きな利用者には本屋へ一緒に出かけ支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物はA棟B棟交代で出かけている。また、散歩もお寺コース、公園コース、線路ぐるりコースがあり、利用者の希望にそって支援している。年に数回ホーム全体で花見等を行っており、その際には家族から車の協力があり一緒に楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関は鍵を掛けていない。家族の了解のもと、利用者の希望で自室に鍵をかける場合もあるが、職員が常に見守っている。また、施錠は利用者からの申し出があった時のみである。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は毎回状況を変えて年2回以上実施している。また、非常災害時の水や食料品等も準備されている。さらに、近所に住んでいるホームの大家さん等へ災害時等の協力を依頼している。今後は、運営推進会議等の委員等にも協力を依頼してはどうか。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量等を記録し確認しながら、支援している。食事のメニューを記録し、バランス良く栄養がとれるよう工夫している。また、月1回の体重測定で体調の変化を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間である食堂は広く明るく清潔に保たれている。A棟とB棟の間のベランダは季節によっては野外食堂兼憩いの場として利用でき、利用者にとっては気分転換のできる空間である。ホーム内は空調等で適温が保たれている。また、気になる臭いは感じられない。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、冷蔵庫やテレビ、タンス、仏壇等、利用者の馴染みの物を持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム ひまわり

記入担当者名 熊谷 玲子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。